

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム アイリーフ当新田

日付 平成19年3月31日
特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年
評価調査員 老人保健施設介護実務経験6年
居宅支援事業所介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

總評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「私は80歳も過ぎたので、もう何にも欲はありませんよ」を連発する さんの次の言葉は「ただ、少し言わせて頂けるなら、美味しい食事がいいですね。味付けだけでなく、品数も器も盛り付け方も…」とだんだん手厳しくなる。

「ちょっとあなた、勉強に来とんなら、私が色々教えてあげらあ。しっかりメモせられえよ」と色々教えて下さる人、若かりし頃の話で皆を大笑いさせる人も居る。

こんなユニークな皆さんに対して、職員もなかなか負けてはいない。楽しい冗談が飛び交い、笑いやたわいもない軽口の中に、お互いの本音も入り交じることもある。こんな雰囲気の中に浸かっている「いいなあ。私なら、こんな所で暮らしたいなあ」と思ってしまった。

管理者・職員は「ここを終の棲家として、安心して暮らして頂きたい」と切に願っている。看取りまで視野に入れて、「温かい家庭の雰囲気そのままに、の理念通りの日常がここにある。

毎日の散歩の時間になると利用者はいそいそと支度に取り掛かる。皆が用意出来る間も、お喋りの輪が広がっている。散歩コースでは車の往来もあり、車の番号を読んだり、畑の野菜の出来具合を話したり、仲良しと色々な話しが弾む。無花果やきんかんを戴いたり、立ち話をする等、近隣の人との交流もある。会社の関連グループで毎年実施している、「改善コンクール」の報告では、作年はホームの周辺を花一杯にして地域の人達との交流を目指した。とても良い視点で、出来れば続けて欲しいと思う。

生活リズムの柱となっているこの散歩や食事等の他は、ゆったりと思いついた時を過ごしている。職員の目配り、気配りの中で、自分らしい暮らしが出来ているホームである。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

利用者の入居前の人生歴、入居後の生活歴を見やすい形でまとめておけば、今後のケアにつながり、重度化した時も役立つのではないかと思います。

家族会の活用方法はまだまだ残されていると思います。協力、協働のチャンスは今以上に一つでも増やし、地域の方々にもこの輪に加わってもらって下さい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>利用者はあまり遠慮することなく思う事を喋り、「あゝしたい、こうしたい」と色々な方法で訴えている。職員の方も、利用者におもねるでもなく、そうかと言って、失礼な対応でもない。どちらかと言えば、家族や友人同士のような親密感が感じられる。さばさばした雰囲気もあり、このホームの温度は「丁度良い塩梅」と思う。「温かく、家庭的」という言葉はよく使われるが、こんな空気の事を言うのかなと思った。</p> <p>また、運営方針の一つに挙げられている「自立支援」にも、管理者、職員は力を入れている。利用者が現在罹っている病気や治療法については最大限に配慮し、入居時と比較して信じられない位快方に向かったり、自立出来るようになった例も聞く。</p> <p>「私達スタッフの家族を、安心して入居させる事が出来るホーム」を目指し、確実に実現している。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>自分流の時を過ごす事の出来る場所が確保されていて、そこで思い思いの時を楽しむ事ができる。みんなの声が聞こえて安心と言う時もある。一人で過ごしたい時は居室へ行く。また、職員を家族以上に思っているのかしら？と思える程、ポンポンと言い合ったり、時には甘え、スーと寄り添う姿を見ると、「ここは落ち着いて暮らせる場となっているな」と感じた。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>利用者の持てる力を「自分は役立っている」という自信に繋がるように職員が話しかけられている。出来る事は、自分の仕事として積極的にして頂くという姿勢はあちこちで見受けられたが、今後心身の状態が重度化していくことも見据えて、今の努力を継続して欲しい。一つでも多くの新しい発見を期待している。こんな発見の方法や試行の経緯、ケアへの繋がり等も研究の対象にしてみても？と思う。</p> <p>その為には、一人ひとりの利用者の人間像をしっかりと掴まえる事が先決だろう。個々の職員が十分把握しているだけでは、ホームの財産とならないと私は思う。本人や家族から得た情報は、職員間で共有したり、交代した職員も一目で理解し易い工夫が欲しい。利用者一人ひとりの力や人生の中での経験が尊重されるのは、こういった前提のもと、初めて本物となるのではないかと。今後の成果を楽しみにしている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	<p>ホームとしての役割を感じ、常に向上しようと「改善コンクール」にも積極的に参加している。今後も、利用者へ寄り添うケアの時間の支障のない限り頑張りたい。特に「人生の終着駅を共に」を目指して、今後のホームのあり方、家族との強い連携を考えていこうとする姿勢には、家族の立場から見ても嬉しい事だ。困難を乗り越えて、お互いに達成感を感じられるなら、職員間の気持ちも一つになり、やりがいにも繋がるだろう。</p> <p>こんな積極的なホームの姿に家族や地域社会の協力、協働が少しずつでも加わっていくなら、もっと素晴らしいホームに成長するだろう。地域の為にも、このホームの機能をしっかり活用して、認知症理解の拠点になって頂きたい。</p>		